



The Democratic Party of Japan
民主党

福岡市議会議員

今日も！田中しんすけの 胸を張って、元気よく！！

◆ 福岡市政ドキュメント ◆ 第2号 2007年 秋号

発行者：福岡市議会議員 田中しんすけ

(民主・市民クラブ)

〒810-0014 福岡市中央区平尾2-15-20 2F

TEL 092-521-3650 FAX 092-521-5221

URL: <http://www.tanakashinsuke.jp>

E-mail: info@tanakashinsuke.jp

**決算
特別委員会**

堂々のデビュー

を果たしました！！

2007年10月9日に開会した「決算特別委員会」。福岡市議会議員としての議席を頂いて半年が経過しようとしています。今回この決算特別委員会の場で、初めて質問する機会を得ました。決算特別委員会とは、簡単に言えば、「平成18年度に実施された事業が、計画通りに進められたか」ということを確認する場です。同時に、「平成19年度以降は、〇〇といった視点から予算編成すべき」といった、今後の政策の方向性を提案すべき場でもあります。

田中しんすけは民主・市民クラブのトップバッターとして、「博多港開発株式会社、およびアイランドシティのまちづくり」、「病院事業会計、および市立病院の経営状況」に関してそれぞれ質問しました。

アイランドシティを「市民の財産」とするために、国・県・各級議員を巻き込んだ集中的な産業誘致促進を！

これまで13年間もの時間をかけて取り組んできながら、市民が納得できるような具体的なまちづくりの展望や産業誘致の戦略が見えてこないアイランドシティのまちづくり。私は今回の質問で、「このアイランドシティ整備事業が本市の身の丈を超えている現状を認識した上で、今後は市長自らがリーダーシップを発揮し、県や国に対しての積極的な研究・産業拠点誘致のための活動を率先して行うことで、市民に対してアイランドシティ事業に対する『市長の覚悟』を示す必要があると考える。アイランドシティを真に『市民の財産』とするために、そして『アイランドシティを大胆に見直す』という市長の言葉に期待をかける多くの市民の声に応えるために、今後のアイランドシティ整備事業に対する吉田市長の決意を問う」と、アイランドシティのまちづくりに対する市民の不信感を払拭するためには、市長が不退転の決意を伝えなければならないことを強調しました。

吉田市長は、「(アイランドシティを)市民の財産とするため、かけっばちに立った覚悟で進める。私が先頭に立って取り組んでいく」と答弁し、土地処分と絡み懸案の企業誘致に関連し、国や県への働きかけも含め、トップセールスを展開する考えを改めて示しました。

※緊急貸付制度

アイランドシティ整備事業の円滑な推進を図るため、博多港開発(株)が他の資金調達の方法を検討してもなお、一時的な返済資金の不足が生じた場合に対応するため、平成14年に創設した制度。福岡市は、博多港開発(株)に対して100億円を限度に貸付が可能。

西日本新聞(朝刊)
2007年10月11日 掲載

会社救済ありきの議論は言語道断！

緊急貸付制度の発動は市民の理解を得られない

現在の博多港開発(株)の決算状況を見ると、一見財務状況は悪いようには見えません。しかし、会社の実態としては、協調融資銀行団との協議によっても融資がストップされ、いつ資金ショートを起こして倒産してもおかしくない状況にあることを指摘しました。その上で「新市立病院の建設予定地であった(アイランドシティの)土地処分が本年度は見送られる公算が大きく、その場合、博多港開発(株)の資金返済に大きな影響が出る。福岡市は、博多港開発(株)に対して緊急貸付制度の発動による資金融通を実施する可能性はあるのか？」という私の質問に対して、港湾局長は「緊急貸付の実施に関しては、協調融資銀行団に11月の検証・検討結果『最終報告』についての理解と今後の融資についての協力を得て、緊急貸付は実施しないよう最大限努めていく」と答弁しました。

これ以上の安易な税金投入は、アイランドシティ整備事業に対する市民の不信感をますます高めることにつながります。今後も、この緊急貸付制度が軽々に発動されることが無いよう、注視していきたいと思ひます。





このコラムでは、田中しんすけが発見した中央区内の新名所や、癒しのスポットをご紹介します。
第二弾は、小笹地区の町並みレポートをお届けします。

小笹で用事を済ませたその帰り道、平和三丁目のバス通りを平尾に向かって歩いて帰っていると、通りの名前を記した表示板を発見(下記写真)！

小笹校区では、昨年より地域の主要道路や生活道路に名称をつける運動「校区ストリートネーミング」を公民館主催事業として展開してきたと聞き、田中しんすけ、さっそく小笹公民館へ取材に出かけました。



このようなプレート発見ことはありませんか？

小笹公民館では、館長さんと主事さんからお話をうかがうことが出来ました。

この校区は道路が複雑な上に、目印となる建物が少ないことから、この地域に長く住んでいない人にとっては地理が分かりにくく、近年ではこれが防犯面でも問題となってきたため、この運動が盛り上がってきたそうです。約40枚の愛称プレートはアルミ製で、バス通り沿いは深緑、通学路はえんじの2色。約20万円の制作費は地元の自治連合会が負担。小笹小学校もこの活動を契機に、名前の由来をたどって街の歴史を学ぶ授業を行なっているとのこと。

◇小笹地区の代表的な通りの名前◇

大休山通り
おおやすみやま

小笹公園から小笹団地正門まで。昔、南公園・動植物園・小笹団地一帯は「大休山」と呼ばれていました。

七夕通り

しちせき

歩道橋から平尾中・小笹小の西側を通り、公民館まで。例年、7月に笹飾りで賑わう通りです。

カメ公園坂通り
かめこうえんざか

小笹2丁目の信号からサンリヤン小笹まで。昔、小笹南公園には大きなカメの形をした遊具があり、子どもたちに「カメ公園」の名で親しまれていました。

こども病院は、周産期医療を加えて単独移転へ 市民病院は民間移譲も視野に、経営効率化が急務！

本年9月に報告された病院事業検証検討結果報告を見ると、今後の市立病院(こども病院、市民病院)の経営のあり方について多くの紙幅が割かれており、その中では今後の市立病院が取りうる様々な経営形態についての検証が行われました。病院事業会計に対する一般会計からの繰入金額をいかにして減少させるか、そのために、どのようにして市立病院の経営効率を高めていくか、という点を議論し、速やかに実行に移していくことは急務です。



緊張の面持ちで発言台に立つ

以上のような観点から、過去数年のこども病院・市民病院それぞれの決算状況について質問し「ここ数年一般会計からの繰入金額の減少が続いているものの、経営効率を示す指標から判断すると、とりわけ市民病院に関しては経営効率が高まっていない」ことを指摘しました。また、市民病院の経営改善を早期に実現するために、病院の移転にかかわりなく、今すぐにでも経営形態の変更に着手するよう、強く要望しました。

新市立病院の財政負担に関する説明は不十分！ 市民が納得できる政策決定を強く要望

新市立病院や市民病院のあり方に関しては、今後も慎重に検討していく政策課題であると考えます。とりわけ、移転後の新病院への毎年度の一般会計からの繰入金額に関しては、最小の予測でも20億から30億という大きな金額で計算されています。こども病院に対する一般会計からの繰入金は年々減少しているだけに、この繰入予測に関しては今後の詳細な説明が不可欠です。このような認識の上で「あるべき病院の経営形態や市民病院の今後の在りようなど、山積する諸課題についてしっかりと政策判断を行ない、またその結論に関しては、われわれ議会や市民にも十分な説明を果たす責務があると考えている。予算計上の時期も含め、適宜適切な手順を踏み、市民が納得できる政策決定がなされなければならない」と要望し、市長に所見を求めました。

吉田市長は「新たな病院への一般会計からの繰り出し金の予測については、11月の最終報告で説明できるよう、検証・検討チームに追加の検討を指示している。しっかりと説明責任を果たしながら、手順を踏んで進めていきたい」と答弁しました。

秋の祭典

オータムフェスタ平尾音楽祭 in 堀川公園

去る10月21日、平尾商工連合会が主催する地域イベント「オータムフェスタ2007平尾音楽祭」が開催されました。私も平尾商工連合会の一員で、開会から終了までの丸一日間、この地域の行事に参加してまいりました。前半のオータムフェスタは「地域文化祭」といった感じで、校区で活動しているサークルの方々による発表会や、消防団による太鼓の演奏が披露されました。



地域の方々と交流する中



舞台で役を演じる(小笹にて)

午後からは、いよいよメインイベントである平尾音楽祭が開会です。インディーズ界でもその名前を轟かす合計12組のアーティストが、会場を沸かせるパフォーマンスを披露しました。この日は絶好の秋空に恵まれたこともあり、お年寄りから親子連れの方まで、この秋の祭典を楽しんでいました。

田中しんすけ市政相談所 (民主・市民クラブ中央区事務所)



お気軽に
ご相談下さい！

田中しんすけ

昭和53年6月14日生まれ(29歳)

1991年	西高宮小学校	卒業	2004年	早稲田大学大学院	
1994年	西南学院中学校	卒業		政治学研究科修士課程	修了
1997年	筑紫丘高等学校	卒業	同年	アクセンチュア株式会社	入社
2001年	九州大学法学部	卒業	2007年	福岡市議会議員(1期)	

民主・市民クラブ 議会通信 vol.32 2007年 秋号

〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1
福岡市庁舎議会棟 民主・市民クラブ議員控室
TEL.711-4736 FAX.732-4055
http://www.minshu-shimin.jp

9月議会

9月議会では、山下謙二議員(南区)が「福岡市中央卸売市場特別会計補正予算案」について議案質疑。一般質問に立った三原修議員(南区)は、9月に出された「アイランドシティ整備事業及び市立病院統合移転事業検証・検討結果報告」について種々の問題を鋭く切り込みました。また、阿部正剛議員(東区)は「子育て支援」「子ども総合相談センターの充実」「ウイルス性肝炎問題」、太田英二議員(城南区)は「住民自治の現状とこれからの課題」「市立小中学校における教育実習生受け入れ時の謝礼金」「鳥飼ポンプ場整備と今後の浸水対策」について、それぞれ質問しました。

9月18日
【議案質疑】
山下 謙二
議員

青果部市場の統合・移転は 食の安心・安全を確保し 交通アクセスにも配慮を

「福岡市中央卸売市場特別会計補正予算案」に関し、「青果部市場の統合と移転の基本方針決定の過程と内容」について、食の安心・安全の体制などと併せて質問。

市長から「最初からアイランドシティありきではなく、統合・再整備にふさわしく、市民の安心・安全の設備ができるのはアイランドシティという結論になった」との答弁を受けて、議案に賛成ではあるが、統合・移転により不便を強いられる零細な青果業の方々が安心して仕事に打ち込めるよう、交通アクセスの問題などについて質問しました。市長からは「市場の中身の整備と併せて、市民に安全で安心な青果物を迅速に届ける責任の観点から、業者の方々との協議を進めていきたい」との答弁を得ました。



9月19日
【一般質問】
三原 修
議員

「博多港開発」への融資は 銀行団に金利の引き下げを！ 病院移転は時間をかけた議論で



アイランドシティ整備事業に関して、博多港開発の銀行団からの融資状況を質問。「借り入れ利率が長期プライムレートに1%上乗せし、現在3.25%に設定されている」との報告に対し、「プラス1%の上乗せは、アイランドシティ事業に対するリスク。度重なる事業計画の変更、ケヤキ・庭石購入事件など、事業自体への銀行団の不信感の現れではないか」と厳しく指摘したうえで、「銀行団にも金利の引き下げをはじめ相応の協力を求めていくべき」と主張しました。市長も「銀行団の見方が厳しいのは事実」と認め、「人工島を市民の財産とするため、銀行団の信頼が厚くなるよう努力したい」と答えました。

アイランドシティ整備事業に関して、博多港開発の銀行団からの融資状況を質問。「借り入れ利率が長期プライムレートに1%上乗せし、現在3.25%に設定されている」との報告に対し、「プラス1%の上乗せは、アイランドシティ事業に対するリスク。度重なる事業計画の変更、ケヤキ・庭石購入事件など、事業自体への銀行団の不信感の現れではないか」と厳しく指摘したうえで、「銀行団にも金利の引き下げをはじめ相応の協力を求めていくべき」と主張しました。市長も「銀行団の見方が厳しいのは事実」と認め、「人工島を市民の財産とするため、銀行団の信頼が厚くなるよう努力したい」と答えました。

また、「こども病院・感染症センターのアイランドシティへの単独移転」方針を打ち出した報告に対し、「こども病院の移転は、旧当仁中学校跡地が最も合理的。アイランドシティの土地処分計画とは切り離して、市民の合意形成がとれるまで時間をかけて議論していくべき」と訴えました。市長は「アイランドの土地処分ありきの検討ではなく、最適地を総合的に検討した報告であるが、11月までによりよい結論を導いていきたい」と述べました。

9月20日
【一般質問】
阿部 正剛
議員

C型肝炎患者の インターフェロン治療に 福岡市独自の医療費助成を



ウイルス性肝炎問題に関して、市役所で行われた講演会での薬害肝炎九州訴訟の原告患者の訴えを紹介しながら、「C型肝炎のインターフェロン治療に対して、福岡市独自の医療費助成を早急に開始すべき」と主張。「与党の肝炎対策プロジェクトチームが、インターフェロン治療の公費助成を実施する動きがある。国の動きを踏まえながら独自制度について検討していきたい」との答弁に対し、「裁判や国の動きにとらわれることなく、自治体の主体性を発揮すべき」と厳しく追及しました。市長からは「国の動向を踏まえながら、対応したい。ウイルス性肝炎の正しい知識の普及啓発、患者や家族に対する相談をはじめ、検査機会の確保、適切な治療を行うための医療連携などの充実に努めるなど、市民の皆様が日々の生活のなかで直面している課題として取り組んでいく。」と前向きな答弁を得ました。

9月20日
【一般質問】
太田 英二
議員

教育実習の謝礼金は廃止を！ 局地的な集中降雨の対策として 調整池による雨水流出抑制を

「市立小中学校における教育実習生受入時の謝礼金」について、「不明瞭な金銭受理であり、廃止すべきではないか」と質問。教育長は「市民の誤解を生みやすい慣行である」と認め、「一定のルール化について関係機関と協議を進めている」ことを明らかにしました。

また、「鳥飼ポンプ場整備と今後の浸水対策」に関して、「短時間、局地的な集中降雨に対しては、上流地域からの流れ込みにより浸水してしまう鳥飼地域の地形を考えると、鳥飼ポンプ場設置だけでは十分な浸水対策と言えない」と指摘。「田島、別府地域に小規模の調整池を設置して雨水流出抑制を図る必要があるのでは」と質問。「田島、別府地区を含め、全市的な取り組みについて検討を進めたい」との答弁を引き出しました。



暮らしを守る条例立案にむ

地方分権の進展に伴い地方自治体の自己決定権が拡大しており、首長と議員の双方を住民の直接選挙にかからしめる二元代表制の下で、地方議会の果たすべき役割とその責任は飛躍的に増大しています。地方議会が担う役割には、主なものとして行政監視機能と政策立案機能があり、最近では、特にこの政策立案機能の強化を求める声が高まっています。

議員による条例案の提出は、首長の提出した条例案に対する対案として、また、時として地域の抱える多くの課題に対して議員自らその対応策を責任を持って提案するものとして、地方議会がその職責を果たすための重要な手段となります。

そこで、私たちも議会の活性化のため、また議員自ら責任を持って市政に望むために、民主・市民クラブ内に議員提出条例勉強会を立ち

10月決算特別委員会

10月の決算特別委員会では、田中しんすけ議員(中央区)が「博多港開発株式会社及びアイランドシティのまちづくり」「病院事業会計及び市立病院の経営状況」に関して、田中丈太郎議員(博多区)が「保育行政」と「ホームレス自立支援」について、金出公子議員(東区)は「環境問題」と「市営住宅」についてそれぞれ質問。江藤博美議員(西区)は「非常勤嘱託員の雇用条件」「住民自治組織の支援体制」「指定管理者制度の導入効果」「財政危機克服の課題」「アイランドシティのまちづくりの今後の見通し」について質問しました。

10月10日
【総会質疑】
田中しんすけ
議員

アイランドシティ整備事業の 検証・検討は不十分。過去の教訓 を未来に活かす視点が欠落

博多港開発の決算状況に関して、「協調融資銀行団との協議によっては融資がストップされ、いつ資金ショートを起こしてもおかしくない状況にある」と指摘し、市の緊急貸付制度の発動、法的整理を選択したときのアイランドシティ整備事業に与える影響について質問。港湾局長は「協調融資銀行団に協力を得て、緊急貸付は実施しないよう最大限、努力する」「法的整理を選択する状況にはなく、今後とも円滑に事業を推進していきたい」と答弁。また、アイランドシティ整備事業の度重なる計画変更の経過に関して「過去に学び、学んだ教訓を将来の構想に活かす視点が欠如している」と追求。市長は「11月に出す最終報告で市民の理解を得て、局面を大きく変えて事業を進めていきたい」と答えました。



10月12日
【総会質疑】
田中丈太郎
議員

地域の実情に応じた弾力的運用 保護者・保育園・市が WIN-WINとなる保育行政を



保育所の延長保育について、開所時間の設定など、地域の実情に併せた弾力的な運用を提案。「国との協議や調整、国への要請を積極的に行うとともに、保護者の声を十二分に取り入れ、保護者・保育園・市がWIN-WINの関係となるような保育行政を」と求めました。市長は「保育行政は国の補助事業で、市だけでは難しい面もあるが、子育て日本一を目指し、地域、園、企業も含め、全体の整備を図っていきたい」と答えました。

また、全国的に減少傾向にあるのとは対照的に福岡市内では増加しているホームレスの自立支援へ向け、自立支援センター、安価な

市政展望

け始動！

上げ、今までに3回の会合をもち、テーマを①放置自動車対策、②夜間の花火打ち上げ対策、③飲酒運転対策の3つに絞り、来年6月議会に上程できるように準備を進めています。条例案がまとまりましたら紙面上で報告します。



条例案の作成に向け議論する。左から玉井輝大議員(中央区)と新木義博議員(早良区)

参考：地方自治法第112条にもつき、6名以上の議員連名で条例提出が可能。

簡易宿泊施設の設置を要望。本庁に専門部署を立ち上げ、各区に巡回相談ができる専門員を配置するなどの体制整備を求めました。

10月15日
【総会質疑】
金出 公子
議員

女性、主婦の視点から 「もったいない」の精神で 地球温暖化対策を！

環境問題、特に地球温暖化は、地球上の全ての生命を左右する深刻な問題であり、世界各国が、また、市民一人ひとりを取り組むべき非常に重大な課題です。平成十八年度決算に基づき、温暖化防止、ごみ減量等の環境対策が有効に行われているか質問しました。

「福岡市地球温暖化対策地域推進計画」を策定しながら、取り組みが不十分であることを指摘し、市民・事業者の協力を得て、「エコワット」や「環境家計簿」の利用、公共施設への「太陽光発電」の導入を進めて「日本一の環境都市を目指すべき」と訴えました。

これに対して市長から、「環境問題は、計画に定める温室効果ガス削減目標を達成していくために、全庁あげて取り組んでいきたい」と回答を受けました。



10月24日
【総会質疑】
江藤 博美
議員

アイランドシティに対する 市民の不信を払拭するために 一刻も早い土地の活用計画を



アイランドシティ整備事業に関し、「負の遺産を見直してアイランドシティを有効活用する」ために、9月に出された検証・検討結果報告に対して議会で指摘された数々の問題点を鮮明にして最終結論を出すことを強く要望。また、民間事業者の進出を促すために、県や国、国・県・市の議員も巻き込んだ集中的な誘致活動の必要性を指摘し、「市民の不信を払拭する手段は、一刻も早く土地の活用を図って投資した税金を再び市民に還元できるよう実行計画を示すことに尽きる」と訴えました。これに対し、市長は「アイランドシティは財政的な観点からも不安を一刻も早く払拭することが必要で、スピードが大切。一刻も早く市民の財産にできるよう最大限の努力をしていきたい」と決意を述べました。

また、2320名にも及ぶ市の非常勤職員の雇用条件について、「業務の専門性や恒常性といった実態を考慮するならば、司書の資格を有する図書館職員などに5年雇い止めのような労働条件を設けることは合理的説明が困難ではないか」と指摘。「専門性を持って恒常的業務に従事する非常勤嘱託員」が、最も低い人件費比率を誇る先進市・福岡を支えている一般職員の代行業務に近い仕事をこなしている実態から、「求められる専門性や恒常性などの雇用条件が現状の非常勤嘱託員の労働実情とうまくマッチングしていない」として、非常勤嘱託員の待遇見直しを訴えました。総務局長からは「時代状況の変化とともに、他都市における状況等も考慮しながら適正な勤務条件の整備に努めていく」との答弁を得ました。